

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月25日

事業ID:2023S02384

事業名:難病児とその家族を対象とした宿泊施設の環境整備

団体名:一般社団法人 星つむぎの村

代表者名:代表理事 高橋真理子

TEL:0551-88-9027

事業完了日:2024年3月31日



■契約時

事業費総額	:	3,830,000 円
自己負担額	:	770,000 円
支援金額	:	3,060,000 円

■箇所は(様式3)収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	3,856,569 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	796,569 円	収支計算書の緑のセルの値
支援金額	:	3,060,000 円	収支計算書の赤のセルの値
支援金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

支援契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、支援契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)支援契約書記載の事業内容(予定)

【事業内容】
1. 星つむぎ家の環境整備
(1)工事内容:デッキの設営工事
(2)所有形態:一般社団法人星つむぎの村所有
(3)整備機器:エアコン、電源装置、電動ベッド、シャワーベッド、物置等
(4)施設名称:星つむぎ家
(5)場所:山梨県北杜市大泉町谷戸6587-5
(6)施設概要:宿泊施設
(7)定員:宿泊室(5名)

(2)事業完了時の事業内容(実績)

【事業内容】
1. 星つむぎ家の環境整備
(1)工事内容:デッキの設営工事
(2)所有形態:一般社団法人星つむぎの村所有
(3)整備機器:エアコン、電源装置、シャワーベッド、物置、持ち運びスロープなど
(4)施設名称:星つむぎ家
(5)場所:山梨県北杜市大泉町谷戸6587-5
(6)施設概要:宿泊施設
(7)定員:宿泊室(5名)



(3)成功したこととその要因

星つむぎ家は予定通り、2023年10月1日に竣工した。星見デッキは、家から完全バリアフリーで外に出られるような仕様にし、外からもスロープで直接あがってこられるようになっていて、星空を眺めるのに絶好のつくりとなった。電源装置やシャワーベッドなどの整備は、難病児や医療的ケア児の家族にとっての安心材料の一つになっている。つくるプロセスで、多くの当事者の話を聞いてきたことが、成果に反映されていると感じている。

(4)失敗したこととその要因

デッキの隙間に車いすの車輪がはさまる、という事例を知っていたため、隙間なくデッキをつくったが、雨の通り道をつくるのが少し難しく、水はけ作業が、ひと手間加わることになった。特に寒くなると凍結のための対策が必要である。

(5)事業内容詳細

家本体が出来上がってからの工事となったので、9月後半に着手。当初の予定では、外のスロープは考えていなかったが、やはり外からも直接車いすで入れるとよいということになり、スロープも一緒に製作した。9月後半以降から、さまざまな備品の購入をし、順次準備を行っていった。ウェブサイトやリーフレットで、星つむぎ家のことを知ってもらう機会を増やした。モニター利用の方々の意見も取り入れながら、少しずつ使いやすい家となっている。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 宿泊体験の実施
(1)時期: 2023年10月～2024年3月(11回)
(2)場所: 星つむぐ家
(3)対象者: 90名程度(難病児、長期入院の子ども達、家族等)
(4)内容: 宿泊、星空展望会、農作業体験



(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 宿泊体験の実施
(1)時期: 2023年10月～2024年3月(8回)
(2)場所: 星つむぐ家
(3)対象者: 30名程度(難病児、長期入院の子ども達、家族等)
(4)内容: 宿泊、星空観望会

(3)成功したこととその要因

完全バリアフリーであることや、大きな窓から素晴らしい景色が見えること、星が見えること、プラネタリウムも体験できることなど、大変喜ばれて利用されている。生まれてはじめて、家族で川の字で寝た、朝日を見た、星を見た、などの感想も届いている。また、2024年1月には、NHK Dear!にっぽんやおはよう日本でも取り上げられたこともあり、知ってくださった方も多かった。

(4)失敗したこととその要因

計画当初、宿泊体験を11回目標としたが、冬季に当たる時期は、やはり移動リスクも高いので目標値まで達しなかったが、必要としている人たちからの反応は、想定以上にあり、4月以降の利用につながっている。(4月1～6日の間に、3組の医療的ケア児や、難病児の家族が利用している)

(5)事業内容詳細

2023年10月に竣工した以降、10～12月は、モニター宿泊時期として、星つむぎの村にこれまで関わってきた村人(会員)メンバーや支援者が利用しはじめた。1月以降からは一般向けにオープンし予約を受けつけている。10月～3月の間、星つむぐ家の宿泊としては、36泊、延べ75名の利用があった。そのうち、難病児などの家族は、8組22名である。難病児家族の利用の際には、星つむぎの村のスタッフやボランティアが迎え入れ、星空観望や写真撮影、プラネタリウムの上映などをおこなっている。 <https://hoshitsumugi.org/house> にいくつかの報告をのせている

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

[Empty box for initial plan details]



(2)事業内容の実施(完了)状況

[Empty box for actual implementation details]

(3)成功したこととその要因

[Empty box for success factors]

(4)失敗したこととその要因

[Empty box for failure factors]

(5)事業内容詳細

[Empty box for detailed content]

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)支援契約書記載の目標

【目標】

1. 星つむぐ家の環境整備
2. 宿泊体験の実施
 - ・参加者数:90名程度
 - ・実施回数:11回

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	683	文字数チェック	OK
<p>1. 星つむぐ家の環境整備 「星つむぎの村として、なかなか本物の星空を見ることができない人たちに星空を届ける活動「病院がプラネタリウム」などの事業を行う中で、難病や重い障害を抱えて生きる子ども達やきょうだい、その家族が、外出困難であることは、社会がつくっている壁に大きな要因がある、ということを知る中で、「誰もが安心して満天の星に会える宿泊コテージ」としてつくったのが、「星つむぐ家」である。「星つむぐ家」は、特に、「満天の星」に会えることを大きな特徴としているので、どのような星空デッキにするかは、大きなポイントの一つであった。大きな掃き出し窓から、バリアなしで、車いすやバギーでも外に出られること、デッキの手すりを低く、かつ、幅広くしたことで、車いすの人からでも景色がよく見えることや、椅子替わりにもなって、車いすの人と視線をあわせやすいこと、などの工夫を行った。また、デッキには外からも中からも出られるため、電動車いすの人は、誰の手もかりずに、家のまわりを何周もまわっていたという例もあった。また、電源装置やシャワーベッドなど、備品の整備をすることで、いらっしゃるご家族の安心を増やすことができています。</p> <p>2. 宿泊体験の実施 竣工した10月から3月の間、36泊、延べ75名の利用があった。そのうち、難病児などの家族は、8組22名である。生まれてはじめて朝日を見た、はじめて川の字で寝た、はじめて星を見た、などの「はじめて」体験を語ってくれる家族は多い。彼らの感想がまた口コミで、広がり、4月以降も「必要としてくれている」家族の利用で、だいにぎわっている。</p>			

※700文字
文字数チェック
入力の手シ

3.事業実施によって得られた成果

これまで、さまざまなことをあきらめてきたご家族より、「こういう場所があれば、勇気をもってでかけることができる」、「一度チャレンジしたら、また次のチャレンジの意欲がわいてくる」、といった感想をいただく。特に、プラネタリウムをもって出向き、そこでみた星空に刺激され、「次はほんものの星を見たい！」とおっしゃってくださる家族は、少なくない。そういった気持ちをもつところに、「満天の星をみにおいで！」と言える場所があることは、ご家族にとっても、私たちにとっても、とても幸せなことである。そしてそれは一回きりの旅行を実現するにとどまらず、ご家族の日々のモチベーションにもつながることだと、感じている。

星つむぎの村には、さまざまなボランティアがいるが、必ずしも、病気や障害のある子ども達と接触のある人たちばかりでもない。「家」を通じて、いろいろな人たちの交流があること、お互いを知ることから、「共に生きる」小さな社会が生まれていくことを、実感しているところである。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

星つむぎ家までのアクセスは、最後が未舗装の法定外道路になっていて、医療的ケアのある人たちにとっての未舗装道路は少し敷居が高い(とはいえ、これまでも医療的ケアのある子ども達は複数泊りにきていて、特に問題視はしていなかった)。春以降、星つむぎの村負担で、舗装工事を行う予定である。

また星つむぎ家の特徴はまわりの自然環境や、畑作業もできることにあるが、車いすやバギーでの移動には、相当困難もあり、隣家にも協力を仰ぎながら、車いすやバギーでもアクセスできる方法を少しずつ開拓していく。

さらに、日々、ケアにおわれているご家族にとって、「旅行」は一大事。そして、「旅行」にとって、「食」は、重要なポイントである。おいしい、地元の料理を提供することは、おもてなしの重要部分ではあるが、今のところ、星つむぎの村としての提供はしていない。その代わりに、パートナーで、個人事業として食に関わっている、ボナペティコーポレーションに協力を得て、オーダーがあったときに、対応してもらっている。が、1組数人を相手にすることなので、1人3500円をいただいてもなお、なかなかコストパフォーマンスの点で、採算があわない。何かしら、ボナペティに補助を出せるような形で、よいおもてなしの形を考えていきたい。

5.事業成果物

(1)支援契約書記載の成果物名称

報告書
機器(写真)
リーフレット



(2)事業完了時の成果物名称

報告書
機器(写真)
リーフレット 500部

(3)未作成となった要因

なし

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

https://nippon.zaidan.info/nf/lib/nf/libServlet/nf/lib1050?np=2019&iigvo_id=0000100919